

自治会・コミュニティ部門の講評

①朝日丘町青年会「朝日丘町青年会通信」

毎号、力を振り絞って作ったという熱意と意欲が伝わってきますね。

何ができるか模索する中、防災映画祭を開催されたことにも拍手を送ります。開催に至るまでの経過と当日の様子が丁寧に詳しく書かれてありますが、改行が少ないため段落を増やした方が読みやすくなりますよ。また、誰を対象にした映画会なのか？16人の参加は成功なのか？が書かれておらず気になりました。

「南海トラフ地震」はタイムリーで読者の関心が高い特集ですね。防災映画祭の記事とも連動していて、紙面の流れが良いです。ウエザーニュース調査のグラフを使っているので内容に説得力も増しています。ただ、主観的に書かれてあるので署名をいれてはいかがでしょう。また、メイン見出しは、記事の中で最も訴えたい結論部分から取った方がよかったです。 (笑) は流行りですが、多数者に発信する記事に使うには主観が強いため、笑うかどうかは読者に任せた方が良いでしょう。

「青年会アンケート」は興味深く、家族で地図を使用した避難場所の確認、備えのモバイルバッテリー、家族の電話番号が書いてあるものの常備、ラップなど、皆さんがいざというときの備えについて良く考えていることに感心しました。

「防災推進員研修会」は丁寧な報告記事ですが、改行が少なく読みづらい印象です。また、個人の体験記なので署名を入れた方が良いでしょう。

付録は手間がかかった労作です。読者目線に立って役立つように上手く工夫して作られおり、保存版として大切に保管する人も多いのでは。

8ページは見出しが煙突状につながっているため、もう少しレイアウトに変化を持たせてみてください。

②磯島校区コミュニティ協議会「磯島だより」

題字の下の人口、世帯数、年齢層別人口は、地域を知れる良い資料ですね。限られたスペースにもかかわらず記事や写真の数が多く、豊富な情報量を評価します。全体的にコンパクトな記事ですぐ読むことができ、それぞれの記事に署名が入っていて親しみがわきます。

紙面トップの「歩こう会」では、大勢が写った集合写真を持つことでコロナ禍でも「つながっている」ことをアピールするという狙いが強く表れていて素晴らしいです。参加者の喜びの言葉が、つながりの大切さを物語っていますね。次のページでも展開しており、本行事に力を入れていることが伝わってきます。「参加した記者の目」も一体感が出て親しみが湧きますが、見出しに喜びの感情を込めたものをもう1つ入れると、さらに良い記事に

なったと思います。

「磯島校区の人間国宝」は、地域の人を知れる良い企画です。よく取材をしていて内容が濃く、最後に筆者の感想を入れているのが良いですね。ただ、一目見てこの方の何がすごいのか分かりにくい印象を受けたので、見出しの登場人物の名前＝東本隆幸さん＝のところに肩書きを入れて、見出しから記事の内容が分かるにするといいでしょう。また、本文の方こそ大事なのに前文の字に対して本文の字が小さいのは違和感があります。文字の大きさは柔軟に対応しているそうですが、なるべく基本の大きい字を維持したまま紙面作りをする方が良いでしょう。字の大きさの種類が多すぎたり小さかったりして読めなければ意味がないので、例えば記事の数や写真の数を減らす、文章の長さを縮めるといった工夫を試みてください。

③小倉校区コミュニティ協議会「校区だより おぐら」

薄めの緑を基調にした紙面で落ち着きがあり、大きな字で読みやすいです。

新会長のプロフィールを入れているのは、人を知る上で親しみやすく良いですね。

「小倉小学校 50 周年」の記事は会話形式なので読みやすく、思い切ったレイアウトに挑戦する熱意が素晴らしいです。学校の古い写真は懐かしく読者に受けるとは思いますが、卒業アルバムの写真は小さくて不鮮明なのが残念でした。また、オリジナルキャラクターを募集するアイデアと受賞作品の紹介は面白いですね。横書きの場合、記事の流れは普通左から右ですが、本紙は右開きなので目線が逆に右から左へ流れます。このため、どこから読むか戸惑う人がいるかもしれません。記事の導入部分として前文を付けるか、見出しの作り方を工夫すると、さらに読みやすかったです。中見出しが質問形式になっていますが、中身から取る方が記事が要約されて分かりやすい場合もあるので、今後の機関紙作りに生かしてみてください。

「福祉だより」は主観的な書き方なので、誰が書いたか分かるよう署名を入れてみてはいかがでしょうか。

「編集後記」は読者とのかけ橋になる記事で読まれる率が高いので、短い中にも裏話や苦労話など「ヘー」「そうだったのか」と思わせる具体的なことを盛り込むようにしてみてください。

④香里校区コミュニティ協議会・香里校区福祉委員会（広報部会）

「香里校区だより」

全体的に文字が大きくて読みやすいですね。

「明るい笑顔がこぼれるひととき」は、温かい気持ちになれる良い見出しです。入場者の

声も書かれてあって記事に臨場感が出ています。ただ、キルト展の記事だと一目で分かりにくいので、見出しに入れておくと良かったと思います。

見開きページは余白を上手く使っていて、伝えるための工夫を感じます。

「感染症に負けない元気な体を目指しましょう」は、催し自体が良く、体操の手順を写真で紹介しているので分かりやすいですね。この記事についても、看護学生との交流と分かる見出しがほしかったです。

全体的に思いがこもった見出しが多くて良いですが、記事の中身から取った具体的なものも加味して、記事の内容が分かりやすくなる工夫をしてみてください。

「香里小学校 PTA との交流会」「香里あかね会の表彰」は、状況説明だけ書かれてあるので人の声や参加者の感想がほしいところです。

⑤五常校区コミュニティ協議会「五常」

総会が2年連続の書面評決の記事は、地域の歴史として留めておく良い記事です。重要なイベントを赤字で強調しているのも分かりやすいですね。予算を表で示しているのは透明性の面からもすばらしいです。夏祭り中止の表示はイラストにユーモアを感じます。

特に読んでほしい売り物記事の紹介を、欄外に示しているのは気の利いたアイデアですが、字が小さく赤字でも目立たないのが残念です。

全体的に地域の記事がたくさん載っているので親しみやすく読まれるのではないのでしょうか。記事は丁寧な報告として主観的に書かれてあるので、すんなりと読み進めることができます。ただ、主観的な記事は署名を入れた方が良いでしょう。特に「特定健康指導」は、「保健センターに行ってきました」と個人の体験を書いているので、署名がないと違和感があります。

催しに関する記事は、「煙突山さくらまつり」のように、参加者の声や感想を入れる努力を。

また、「おっしゃる」「おられました」のように敬語表現が混じっているのも、どのくらいまで使うかを事前に決めておいてはいかがでしょうか。

⑥蹉跎校区コミュニティ協議会福祉委員会（福祉部会）「サダ福祉だより」

題字の下に、高齢化率、少子化率、世帯数、人口、男女別の数字を載せているのは良いアイデアです。地域を知る数字としても良い資料ですね。自治体の広報紙で似たようなデータを掲載しているものがありますが、男女別を廃止するところがいくつか出てきたので、参考にしてほしいです。今回の応募のあった機関紙でも、男女別を書いていないものがありました。

詐欺被害の記事は、文章の中で「地域のふれあいやつながりの機会が失われています」と、

コロナ禍に乗じた詐欺の多発に警鐘をならす狙いがはっきりしていて良いですね。

活動報告にはさまざまな記事があって、地域の動きを伝えようとする意欲が見えます。署名が入っているので、親しみがわきますね。記事を書く協力体制ができていることに拍手を送ります。「おられました」「されました」といった表現は丁寧すぎる気がします。見出しが全て1段見出しで、赤字にしているものの字の大きさは本文と一緒にしているので見出しとしての力に欠けます。少なくとも「活動報告」の見出しはもっと大きくした方が良いですね。写真も全て1段で変化に乏しく感じます。

「サダ健やかな人」は地域の人を取り上げた親しみがわく企画ですね。売り物企画だと思うので、もう少し目立つ扱いにはいかがでしょうか。

1段見出しで、1段ごとの写真と記事は右から左へと順番に流していますが、変化をつけると見せる力が上がります。縦の罫線を使ったり、囲み記事を交えたりする工夫をしてみてください。

⑦菅原校区福祉委員会「菅原校区福祉だより」

前文が付いた記事や見出し、写真、イラスト、グラフなど、紙面づくりの基礎がしっかりしています。高齢の方に読まれると思われる記事は縦書きで文字を少し大きくした、という発想は読み手目線に立った良い工夫です。

新型コロナの記事は、前文できちんと狙いを書いていて読み進めやすいですね。菅原校区の状況まで加わると、もっと読者が身近に感じてさらに効果的な記事になるのでは。

君塚榮美子さんの寄稿は体験記なので親しみが持てます。「くらわんかウォークス」「カラダづくりトライアル」「120日チャレンジ」の関係が分かりにくいのが少し残念でした。

コロナ関連記事は、出典をはっきり書いていて信ぴょう性が高く読み手に誠実ですね。

取材に基づく記事や地域の人が登場する記事が少ないので、もう少し増やせないか検討してみてください。

⑧尊延寺区「尊延区民だより」

「健康で明るく住みよい尊延寺区」と、表紙に理念を掲げているのが良いですね。ページに基本の色を設けていて、しかも優しい色なので、落ち着いていて読みやすいです。

総会を書面総会として開催したことは、コロナ禍での地域の歴史に記録を留めることでしょう。決算の数字、役員の名前、予算の総額くらいは書いておくと丁寧ですね。

「コロナ禍での唯一の恒例行事」、「公民館ホール閉鎖」も地域の歴史として刻まれますね。閉鎖の見出しの次に、活動再開の見出しがあるので、文章で補う必要があると思います。

イノシシの記事は、会話形式が良いアイデアで読みやすいです。被害の経緯、対策など幅を広げていて、充実した企画記事になっています。ただ、このページの狙いについて簡単な

前文をつけると、読者がすんなりと記事に入っていきますよ。会話部分はどこから読めばいいのか戸惑ってしまいました。

「すごろく」は、遊びながら地域を知る良いアイデアです。

「おうち時間を家族で脳トレ」は、コロナ禍ならではのアイデアで、パズルのようなものを4つも掲載していることに読者を思う編集側の意思を感じます。

最終ページは地域のことをいくつも取り上げていて親しみやすいので、読者に良く読まれるのではないのでしょうか。

⑨津田校区元気づくり地域づくり協議会「ほっこり新聞」

フレイル予防の記事は、コロナ禍だからこそ必要な活動を取り上げていて、地域の絆を守るという発行側の意思を感じます。ただ、見出しや記事をもう少し整理して丁寧に書いた方が良いですね。見出しに「ほっこりクラブ津田」が2回出てきたり、ほっこりクラブ津田、トーコーカフェ、しゃべり場、フレイル予防の関係がすんなりと入ってこなかったりするところが残念でした。

「季節のたより」「津田のこんなところ」は地元を知れる良い企画です。主観的に書かれてあり親しみやすいですね。この記事のキーワードとなる「伊勢神楽」「春日神社」を見出しに取ると、もっと読者に中身が分かりやすくなりますよ。「方々に出会いました」と個人的体験から入っているので、署名を入れた方が良いですね。「おられる」「舞われ」などはい回しが丁寧すぎる印象です。

津田小学校創立150周年の年表は地域の史料として良いですが、「お住まいの」「学ばれていた」などの敬語は極力控え、丁寧語で統一したほうが読みやすくなります。

「ほっこり写真館」への投稿が多いことを期待しています。

⑩茄子作自治会「茄子作自治会報」

A3用紙裏表の1枚という限られたスペースで、いろいろなタイプの情報を盛り込んでいることを評価します。写真を多用しているので目を引きますね。ただ、写真の大きさにもう少しメリハリがあると、さらに目を引き付けますよ。9社の広告を掲載する営業努力には拍手を送ります。

「コロナ禍の中でV」は、工夫した活動を具体的に報告していて良いですね。記事を読んでも見出しが前提の書き方ですが、記事は見出しとは別の独立したものとして、コロナ禍での工夫をきちんと表現した方が読みやすいです。写真で「6月定例役員会」と示していますが、記事では「会議」と省略しているのも舌足らずな印象を与えます。見出しで「V」は分かりにくいので、「勝利」などの言葉に置き換えてみてはいかがでしょうか。

「草刈」はまとまった記事でした。

「マイ防災」は簡潔で役に立ちます。次回のテーマを記しているのも良いですね。連載方式にしていることに、自治会としての強い意思を感じます。

「コロナワクチン接種体験記」は、読み物として成り立っており、歴史の資料としても貴重です。しかし、誰の体験かが分からないので署名を入れた方が良いでしょう。

全体的に記事の文字の大きさが何種類にも分かれていますので、統一することを基本にした紙面づくりも検討してほしいところです。

⑪東香里校区福祉委員会「東香里福祉だより」

写真をたくさん使っていて見栄えがしますね。大きさもさまざまで、メリハリが効いています。室内写真の中にブレているものやピントが甘いものがあったので、次回からカメラの設定と構え方を工夫してみてください。

題字の下に、世帯数、人口、男女別、高齢化率、少子化率の数字を載せているのは良いアイデアです。地域を知る数字としても良い資料ですね。似たようなデータを掲載する自治体の広報紙の中で男女別を廃止するところがいくつか出てきたので、参考にしてほしいです。今回、応募のあった機関紙の中にも、男女別を書いていないものがありました。

子育てサロンの記事は、久しぶりの楽しさが出ていて良いですね。子どもの表情の引き出し方が素晴らしいです。見出しで記事が子育てサロンのことだと示したかったのだと思いますが、見出しと記事はそれぞれ独立していると考え、本文でも子育てサロンが開かれたと明記した方が文章の流れが自然です。参加者の声や感想、久しぶりの喜びの言葉があると、さらに良くなると思います。

作品展は、にぎやかな作りになっていて努力が素晴らしいです。写真はいろいろな場面をとらえていてバラエティーに富んでいます。作品をもう少し大きな写真で紹介するなど一目見て「作品展」と分かりやすい写真を増やしても良かったのではないのでしょうか。

世代間交流サロンも写真を多く使っていて楽しいですね。世代間交流サロンとはどういうものか全体像が分からなかったのも、参加したことのない人にも分かりやすいよう簡単な説明がほしいところです。その下の「楽しんだ者勝ち」の記事も同様です。

⑫枚二校区コミュニティ協議会「礎」

見守り活動の記事は、直接現地に赴いたことに基づき書かれたルポ形式で読みやすいです。掲示板の子どもたちの言葉を入れることで、見守る方と見守られる方の双方が表現できています。意欲的なレイアウトで、チャレンジ精神が素晴らしいですね。改善点を挙げると、見守り活動を紹介する記事だと文頭で分かってもらい書き方をした方が良かったのではないのでしょうか。見守り活動の全体像＝どういう人が何人くらいで何をしているか＝の説明がほしいところです。また、活動をしている人の声があると良かったですね。読みやすくす

るために文中で矢印が使われていますが、それでも文章の流れをつかみにくいため、さらに工夫を。

「コロナ禍のアップデート」は、街の記録として良い記事です。

「こんな時こそ心は密に」のタイトルは秀逸です。「地域の絆」をテーマにしている、「コロナ禍の生活でもつながりを絶やささない！」という明確な意思を持った記事作りをしていることに拍手を送ります。せっかく前文をつけているので、記事の狙いまで書くとよかったですね。民生委員の活動の記事が=岡山手町の部分までか？友愛訪問は民生委員なのか？=どこまでか分かりにくい印象を受けました。子ども会の記事は、民生委員の活動とは違う中身だということが分かるように見出しを工夫した方が良かったですね。絵手紙紹介のアイデアは良いですが、小さくて見づらいのが残念です。

「枚方面影さがし」は、手間をかけた取材と絵巻の写真、新旧の写真、地図などを使った編集で、充実したページになっています。

「消費者トラブルに備えよう」は、具体的に示してあって読者の役に立つ親切な記事ですね。

⑬藤阪校区福祉委員会「藤阪校区福祉コミュニティだより」

前文を入れるなど記事の書き方、見出しの立て方、写真と写真説明、囲み記事と、一般の新聞紙面のような整理された作りになっており、拍手を送ります。

トップ記事に「地域の世話役」を配置しているほか、「わがまち情報」「藤阪の自然」を組み込むなど、地域のための機関紙を目指すコンセプトがしっかりしていますね。「撮影のためマスクをはずしてもらっています」「モデル撮影」など、写真説明が丁寧です。

「運動会」は写真を多用していて良いですね。ただ、写真の大きさにメリハリが欠け、たくさんの方が写っていることもあり表情が見えないので、個々の写真の特徴が希薄に感じました。写真を多く使うことにどういう意味があるか、再確認しておく必要があるのではないのでしょうか。

催しの記事は、敬老の集いのように、できるだけ参加者の声や感想を組み込む努力を。敬老の日の記事は「楽しみにされていた」「お渡しする」など丁寧な言葉遣いですが、やや丁寧すぎる印象を受けました。